

和歌山商業高等学校

実施日時	令和2年11月2日(月)、11月9日(月)
参加者	11/2 生徒280名、教職員14名、計294名 11/9 生徒832名、教職員60名、計892名
実施内容	11/2(月)家具固定法に関する防災講演会 11/9(月)避難訓練

ねらい

- 1 近い将来発生が危惧される南海トラフ地震等の自然災害に備え、防災・減災に関する専門的知識や技術を習得させ、地域防災の担い手として社会貢献できる生徒の育成を目的とする。

主なプログラム

- 1 家具固定法に関する防災講演会



- 2 避難訓練



概要

- 1 家具固定法

地震での負傷原因の一番は家具の転倒・落下である。家庭ではどんな場所が危険か把握し、様々な家具の固定方法について知る。

- 2 避難訓練

南海トラフ巨大地震に備え、集合場所への迅速な行動、点呼・確認方法の訓練を行う。震度5強から6弱の地震の激しい揺れに対し、校舎は倒壊しなかったが、教室や廊下の窓ガラスが割れ、天井や照明器具が落下。火災は起きておらず津波警報が発令されている想定で避難訓練を実施。

参加者感想文

- 家具を固定することで、物が落ちてきてケガをするリスクを減少させられるだけでなく、地震と併せて津波などが起こった際の避難時間の短縮にもなることを初めて知り、とても驚きました。
- もし避難しているときに友達が居ないと気付いたら、私は友達が逃げていると信じ、自分の命を守るために避難します。一人一人がその気持ちを持てば、多くの人が自分の命を守ろうとすることで、助かると思いました。

成果と課題

【成果】

昨年度同様、避難訓練時に避難経路を工夫した結果、混雑緩和に繋がりスムーズに避難することができた。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、屋内での活動は控え、1学年のみの講演会と避難訓練の実施のみとした。最も大切な「命を守る」ということを前提として、防災・減災を意識した内容だった。

【課題】

来年度以降、どのような状況になるか不透明だが、感染予防対策も含めて、地域の高校として、災害時にどのような役割や活動ができるのか、可能な限り実現できるよう計画・行動していくことが必要である。自治会や保育園、小中学校と連携して減災を目指し、災害時に避難所運営や防災リーダーとして高校生が積極的に活動し、地域に貢献できるようにしていくことが今後の重要な課題である。